

ふくいの水産業基本計画（案）の概要

1 基本理念と目指すべき姿

(1) 基本理念

「福井の海をフル活用！」豊かな浜のくらしを実現

(2) 目指すべき姿

- 新技術を活用した養殖生産の拡大と天然資源の持続的利用
- スマート水産業の推進と担い手の育成による生産力の向上
- 交流人口増加を見据えた地魚の販売促進と漁村地域の魅力の最大化

2 数値目標〔計画期間：令和2年度～6年度〕

	(H30)		(R6)
○漁業産出額	100億円	→	110億円(10%増)
うち養殖産出額	8億円	→	15億円(+7億円)
○スマート水産業の実践	—	→	30経営体
新規就業者			100人(5年間)
○里海湖への交流人口	52万人	→	57万人(10%増)

3 重点戦略と対策

I 新技術を活かした生産拡大

1. 養殖生産の拡大

- ・県産種苗の安定供給によりマハタやサーモンの生産を拡大
- ・海洋環境に左右されない閉鎖循環式陸上養殖を推進
- ・魚類とナマコとの複合養殖により環境にやさしい養殖を推進
- ・漁港の未利用エリアを活用し、新たにイワガキやウニを増養殖



マハタの養殖

2. 天然資源の持続的利用

- ・稚ガニの多い海域の情報を漁業者がリアルタイムに共有するシステム（デジタル操業日誌）を構築し、稚ガニを保護
- ・種苗放流や藻場造成によりアワビやサザエなどの磯根資源を回復
- ・産卵場の造成や魚道の整備などにより内水面資源の回復を推進



産卵場の造成

II 次世代型漁業の創生

1. スマート水産業による漁家所得の向上

- ・IoTやAIを活用し、水温や塩分の変化に合わせて自動給餌できるサバ等の養殖技術を確立
- ・定置網に魚群探知機を取付け、魚の入網状況をスマートフォンなどにより陸上でモニタリングすることで、効率的な操業を推進
- ・水中ドローンやリアルタイム観測ブイによる漁海況情報を提供し、計画的な操業を推進



IoTの活用

2. 浜を守る担い手づくり

- ・水産カレッジ修了生を「フレッシュアドバイザー」として就業相談会へ派遣
- ・新規就業者への生活資金の貸与や資格取得の支援により定着を促進
- ・「ふくい水産振興センター」を活用して即戦力となる水産技術者を育成
- ・地元漁業者と民間企業等の協業により、経営の安定と雇用の創出を推進
- ・衝突防止装置や自動網上げ機などの導入を進め、漁業の就業環境を改善

III 消費・流通の拡大と漁村の活性化

1. 地魚の戦略的販売

- ・「若狭ぐじ」や「越前がれい」のプレミアムブランドを創出
- ・嶺南のブランド魚（フグやマダイ）を取扱う嶺北の店舗を拡大
- ・新鮮な魚のセリを楽しめる産地市場の整備や6次産業による加工品販売を推進
- ・サーモンやナマコなど養殖魚の輸出に向けた販路開拓を促進
- ・漁獲量日本一のサワラを活用したオリジナル加工商品を開発
- ・漁業者が料理人や消費者と交流し神経締めや活魚輸送などにより商品価値を向上



若狭ぐじ

2. ふくいの里海湖の賑わいづくり

- ・生ガキを安心して食べられる衛生管理体制を整備
- ・地理的表示（GI）を活用し「越前がに」を海外に向けてPR
- ・タコつぼ漁や干物作りなどの体験を充実し漁家民宿への誘客を促進
- ・釣り道具のレンタルやインストラクターの派遣によりアユ釣り客の増加を促進
- ・「川床茶屋」の開設や伝統漁法体験の充実による川魚・湖魚の消費拡大
- ・河川敷の伐木などの釣り漁場の整備と電子遊漁券の導入推進により誘客を促進



越前がに